令和6年度 第3回 北区自治協議会 議事概要

日 時 令和6年6月27日（木曜） 午後1時30分～午後2時30分

会 場 豊栄地区公民館 大講堂

出席者 委員

菊地委員、坪木委員、諏訪委員、小日向委員、飛鳥井委員、
佐藤委員、前田委員、恩田委員、清水(博)委員、有田(一)委員、
佐久間委員、佐藤(茂)委員、清水(文)委員、小熊委員、渡邊委員、
三浦委員、石山委員、横山委員、小林委員、伊藤委員、遠藤委員、
川島委員、佐藤(哲)委員計23人

(欠席：阿部委員、皆川委員、竹島委員、寺山委員、有田委員、野口委員、日下委員)

事務局 [北区役所関係]

区長、副区長兼地域総務課長（以下「副区長」）、区民生活課長補佐、健康福祉課長、産業振興課長、建設課長、消防局北消防署長、農業委員会事務局北区事務所長、豊栄地区公民館長、地域総務課長補佐2人、地域総務課職員5人、

計16人

傍聴2人

1 開会

前田会長

それでは皆様、お手元の会議次第をご覧ください。本日の会議は、次第のとおり、次第2の「報告事項」が5件、次第3「その他」となっております。不慣れではありますが、円滑な議事進行にご協力をよろしくお願いいたします。

2 報告事項

(1) 公の施設に係る受益者負担について

次第2「報告事項」(1) 公の施設に係る受益者負担について、財務課より説明をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

財務課

財務部財務課の上野と申します。本日は貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。私からは、パブリックコメントを経まして今年3月に成案として公表いたしました、施設使用料に関する全市的な基準であります「公の施設に係る受益者負担の設定基準」につきましてご説明させていただきます。

報告資料1をご覧ください。

はじめに 1、基本的な考え方です。公の施設の利用者は、その施設によるサービスの受益者ですが、利用しない方との公平性の観点から、受益者がサービスの費用を負担すべきとするのが受益者負担の原則でございます。ほかの政令指定都市の多くで、公の施設の使用料に係る全市的な基準や方針が策定されていることに加えまして、新潟市財産経営推進計画において、経営改善に向けた取組みの基本的考え方に受益者負担の適正化が掲げられていますことから、全市的な基準の策定に至ったものでございます。

次に 2、基準の対象外とする使用料です。本市が設置する公の施設の使用料が対象となりますが、(1) 法律等で基準額などの定めがあるものや、(4) 利用料金制の施設、これは使用料が市の収入ではなく、指定管理者、すなわち施設を管理する事業者の収入となる施設でございます。身近な具体例としましてはコミュニティセンターがこれに当たりますが、こういったもの、ほかにも記載のものにつきましては対象外としています。

次に2ページをご覧ください。

3、受益者負担適正化の考え方です。施設の管理運営費に対し、受益者となります施設を利用される方にご負担いただく割合と、税による公費負担とする割合を施設種別ごとに設定しまして、受益者負担の適正化を図ってまいります。また、財産経営推進計画におきまして、令和13年度までに10パーセントの運営経費削減という数値目標がございますので、その部分をあらかじめ削減する前提で計算する形としています。

イメージ図をお示ししております。一番上の横長の棒が、サービスの提供にかかる全てのコストをあらわしております。その下の棒の右側網掛け部分にあります施設の取得及び建設に係る費用、いわゆるイニシャルコストでございますが、これは受益者負担の対象外として整理しております。同じ棒の網掛け部分の左側、施設の管理運営費用、いわゆるランニングコストでございますが、こちらを受益者負担の対象経費といたします。今の施設の管理運営費用の右下から赤い斜めの点線がその下の棒に向かって伸びていますが、これは、先ほど申しましたように、現状の施設のランニングコストから10パーセントを削減して計算すると

いうことをあらわしています。10 パーセント削減後の使用料の算定に用いる施設の管理運営費用の真ん中に、赤い点線がございます。このイメージ図は、受益者負担割合が 50 パーセントの場合で作ってありますが、右の半分が利用者以外の方からもご負担いただく税による公費負担の範囲、左の半分が受益者負担の範囲ということで、利用される方からご負担いただく使用料となります。その下の記載は、現行の受益者負担が改定後使用料よりも小さければ使用料を引き上げ、さらにその下、現行の受益者負担が改定後使用料よりも大きければ使用料を引き下げることあらわしています。

次の 3 ページをご覧ください。4、受益者負担区分の考え方です。

一つ目は、公的必要性による区分です。区分ア、市民の皆様が日常生活を営む上で必要かつ公共性が高い施設は公的必要性が高いものと整理し、二つ下、区分ウ、日常生活を便利で快適なものにするために選択的に利用し、特定の受益者の利便を図る施設は公的必要性が低いものと整理しまして、その間の区分イを含めまして、三つの区分に分類しております。

そしてその右側、二つ目は採算性による区分で、使用料等で管理運営費を賄うことが期待できない施設は採算性が低いもの、使用料等で管理運営費を賄うことが期待できるものは採算性が高いものと整理しまして、同じく三つに分類しております。

この二つの視点により整理したものが、その下の 5、施設種別ごとの受益者負担割合の設定にお示した表です。縦軸が公的必要性、横軸が採算性となっています。公的必要性が低く採算性が高い施設の種別、表の一番右下の部分、ローマ数字で分かりにくいのですが、ローマ数字のⅨのグループになります。一番右下です、ここは受益者負担割合を 100 パーセントとしています。具体的には、例えば水族館マリニピア日本海などがここに含まれます。

表の真ん中、公的必要性と採算性がともに中間の、ローマ数字のⅤのグループは、受益者負担割合 50 パーセントとし、ホール、美術館、スポーツ施設がここに含まれます。

その左側、ホールやスポーツ施設より採算性が低い種別であるローマ数字Ⅳのグループは、受益者負担割合を 25 パーセントとし、博物館、資料館などがこれにあたります。

さらにその上、ローマ数字Ⅰのグループは、より公的必要性が高く、受益者負担割合を 10 パーセントとするもので、公民館などのコミュニティ系施設などが該当します。

最後にその上の 0 グループ、子育て支援施設と保健福祉施設は、他都市の例も踏まえまして、受益者負担ゼロパーセント、すなわち全て公費負担と整理しております。

次の 4 ページをご覧ください。

6、受益者負担を求める費用です。施設の管理運営費、ランニングコストを対象とし、取得および建設にかかる費用、イニシャルコストは対象外としています。また、この(2)の、カッコで例示してある、大規模修繕費につきましては、受益者負担を求める費用に含めますと、古い施設などで修繕費用がかさんだ場合、受益者負担が高くなってしまふことになりまふので、こちらは対象外として整理しております。

次に 7、使用料改定時の取り扱いです。(1)の算定式ですが、枠の中の一つ目の式、当該施設の管理運営費に 0.9 を掛けて 10 パーセント削減としたところに、施設の種類に応じた受益者負担割合を乗じまして、当該施設の改定後年間使用料を算出いたします。算出した改定後年間使用料を、人数やコマ数などの年間利用実績で割りまして、改定後の使用料単価を算定いたします。このとき、実際には、市の収入とならない減免分を含めた利用実績を用いて計算しますので、減免による使用料単価への影響は生じません。さらに、このように利用実績を用いて算定した場合、利用率が低い施設では使用料が高くなることが考えられますので、平均利用率を算出できる施設種別につきましては、利用率が平均を下回る施設は、平均の利用率相当まで利用実績を引き上げて、改定単価の水準を抑制することとしています。

(2) 改定時期につきましては、管理運営費の動向を適切に反映するため、原則として概ね 4 年ごとに見直しを行うこととしています。

(3) 激変緩和ですが、他都市の事例では改定前の 1.5 倍を上限とするところが多いのですけれども、施設利用者の皆様のご負担を最大限緩和するため、本市では改定後使用料単価は改定前の 1.3 倍を上限としています。

(4) 使用料の据え置きにつきましては、改定前と改定後の差が 10 パーセント未満、計算の結果 10 パーセント未満の場合は、分かりやすさという観点も含めまして、改定を行わないこととしております。

また(5) 無料とする場合ですが、改定後の使用料収入が、そのための料金徴収コストを下回る場合は、原則として無料といたします。

8、その他につきましては、政策的な普及啓発などを図る必要がある場合などの例外を規定しているものでございます。

次の 5 ページは参考資料になりますが、現在、各施設に掲示をお願いしております市民の皆様、利用者の皆様への基準の周知用ポスターでございませう。

以上が公の施設に係る受益者負担の設定基準についての説明となります。現在、各所管課におきまして使用料改定に向けて準備を進めておりますが、今後の基本的な進め方といたし

ましては、次の市議会、9月議会におきまして改正を提案しまして、可決された場合には約半年間の周知期間を経て、来年4月に新たな使用料適用というスケジュールが基本となってくるものと想定しております。

何卒ご理解賜りますよう、よろしくお願いいたします。

前田会長

ありがとうございました。今の説明に対して、何かご意見とかご質問とかございましたら。

伊藤委員

自然文化部会の伊藤です。

3ページのところで、先ほど博物館、資料館は25パーセントとありましたが、具体的に、こちら北区ですと北区郷土博物館は現在、入館料無料です。教育目的での利用とか福祉バスで来られる他の区からの訪問にボランティアガイドとして対応させていただいているのですが、教育目的とか、その目的によって、例えば無料であったものが有料になると非常に大きなダメージといたしますか、料金が上がったことによって利用が減ると残念な気もしたので、自分たちの地域ではこういう変化があるというイメージが何も分からずご質問ですけれども、お答えいただけますか。お願いします。

財務課

ご質問ありがとうございます。

各所管課におきまして使用料改定に向けて作業を進めているところでございますので、現時点で確定的に、この施設がいくらになるというお話は今この場ではできないのですが、ご質問がありました北区郷土博物館につきましても、この分類としてはIVグループ、受益者負担割合25パーセントというグループで整理しております。

市内、ほかの博物館全てが、今無料のところ全て有料化になるのかどうかというのは、それぞれの施設の状況によって変わってきますけれども、今のところ、北区郷土博物館は有料化に向けて検討を進めている状況でございます。

伊藤委員

郷土博物館に関わっている者としては、無料のままを希望します。全体として意見をまとめて決まるのでしょうかけれども、郷土博物館の存在意義から言うと、一人でも多くの方に来ていただいて、地域の魅力発信の場といたしますか、そういうことをしていただきたいという要

望です。

副区長

今ほどの件なのですが、今、区では有料の方向で検討しているところではございますが、ただ、教育的な観点からということで、小学校、中学校については無料にできないかということで、今、検討しているところです。全市的な方針でもありますので、一部有料化についてはやむを得ないものと思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

前田会長

ありがとうございました。

先ほど、9月議会に上程するというようなお話だったと思うのですが、その前に、北区でどのような方向なのかという説明はあるのでしょうか。

副区長

今ほどの会長のご質問なのですが、その前の8月の自治協議会には、議案になるものについて、このほかにもスポーツ施設ですとか公民館などが予定されておりますので、そういったことについてご報告させていただきたいと思っております。

前田会長

ありがとうございました。

ほかに何か、質問とかご意見とかございますか。

川島委員

川島です。

3ページの下の5のア、Iグループでコミュニティ系施設と書いてあるのですが、これは、例えば、南浜連絡所の管理室等を使うときに、これは、料金を取るということで考えているということよろしいのでしょうか。

財務課

ありがとうございます。

私ども、公の施設の使用料ということで基準を整理しましたので、南浜連絡所は、いわゆる、公の施設、少し分かりにくい言葉ですが、いわゆる住民の皆さんに使ってもらう

前提の公共施設の基準とさせていただきまして、そういった、いわゆる庁舎に類するようなものは基準の対象外として整理しておりますので、結論、南浜連絡所は今回の基準の対象としては考えておりません。

川島委員

承知しました。

菊地委員

松浜地区コミュニティ協議会の菊地と申します。

2 ページの現行の受益者負担のところなのですが、利用が多いところに関しては、もしかしたら引き下げる可能性もあるということをお聞きしたのですけれども、こういう考え方をすると、あまり使用されていないところに関してはかなりの引き上げになる、利用が多いところに関しては引き下げになるという考え方なのでしょうか。

財務課

ありがとうございます。

施設ごとの状況で算定することが基本にはなるのですけれども、地域性などでどうしても利用率が低い場合もあると思いますので、特にそういうコミュニティ施設などは、市内全域の平均の利用率を算出しまして、そこに達していない施設は平均並みに使われているという前提で計算をさせていただくことになりますので、一定程度、利用数が低い影響が緩和される計算になっております。

川島委員

それは、施設ごとによってみんな違う計算の仕方をすることなのですね。

例えば同じコミュニティの施設であっても、北区にあるコミュニティ施設と中央区にあるコミュニティ施設は別な考え方をするというようなことなのでしょうか。

財務課

施設ごとの管理運営費、どれだけランニングコストがかかっているかを基に料金を計算するのであるけれども、おっしゃるとおり、計算式をそのまま適用しますと、利用が低いところが高く出てしまう計算になっているのですが、市内全体でみて、平均に達していないところ

は、平均まで使われているということにして計算しますので、極端に利用が低いといっても、平均並みには押し上げて計算するというところでございます。

川島委員

悪い見方をすれば、「公費を出したくないので皆さんから負担してくださいね」という考え方になってしまうところもあるので、それでは少し困るかなと思ったのです。

財務課

そういったご意見もごもっともだと思いますが、利用される方と利用されていない方の公平性という観点から、施設の種類に応じて一定の負担をお願いしたいということでございます。

豊栄地区公民館長

川島委員のご質問で確認なのですが、委員がおっしゃられているところは、南浜連絡所の上の公民館部分になりますか。

川島委員

そうです。会議室とか講堂。

財務課

すみません、個々の施設に通じておらず申し訳なかったのですが、公民館ですと、全市的な公民館の改定の中に入る形になります。

豊栄地区公民館長

使用料というのは基本的に発生するものなのですが、公民館では、その目的に応じて、使用料の減免という仕組みをとっております。減免の申請をいただいて許可をするという形式になっておりまして、今回の受益者負担の見直しにおきましては、使用料の減免制度はまた別個に考えておりますので、受益者負担の見直しによって使用料の価格の見直しが入ったとしても、減免制度の見直しに関しましては、今のところ、検討の予定はございません。

前田会長

私は岡方地区コミュニティ委員会の推薦を受けているものなのですが、岡方地区は

施設の稼働率はものすごく低いのです。先ほど、全市の平均というようにお話をしましたけれども、面積と人口案分とか、その辺も大いに考慮すべきではないかと。

例えば中央区の中心街での利用率と、田んぼの真ん中にあるような施設もあるわけです。そうすると、全部一律、全部平均というのは無理があるので、やはり面積とか人口案分とか、その辺も考慮して、何段階か分けるような配慮があってもいいのではないかと思ったのですけれども、どのようなご見解ですか。

財務課

はい。そういった地域性、どうしても地域によって利用率が低くなる場所に何ができるかというところで、利用率の平均まで補正するという形で基準を策定しました。

今日、総論についての考え方を本庁の財務課から説明させていただいて、8月はそれぞれの施設、北区の施設がどのように料金が改定されるかについてご説明させていただきます。

また、今ほど岡方の地域のお話がありましたが、コミュニティセンターについては今回の改定の対象外ですので、ご安心いただければと思います。

前田会長

分かりました。ほかに何か、皆さん、ございますか。

ないようであれば、上野さん、大変ありがとうございました。

(2) 令和7年度区づくり予算事業について

前田会長

次に「報告事項」(2) 北区区づくり予算事業についてです。

江戸副区長から説明をお願いします。

副区長

副区長の江戸です。ご説明いたします。

はじめに、「特色ある区づくり予算」についてご説明します。報告資料2「特色ある区づくり予算」をご覧ください。区づくり予算の概要となります。

一つ目が、資料左側の区企画事業です。区役所が企画、実施する区内を対象としたソフト事業、またはランニングコストがかからないハード事業となります。企画立案にあたり、区

自治協議会条例第7条第1項第3号により、自治協議会委員の皆様のご意見をお聞かせいただくものです。

二つ目が、資料右側の自治協議会提案事業です。地域課題の解決に必要な事業などを、自治協議会委員の皆様から主体となっていただき、企画、実施するもので、区内を対象としたソフト事業です。こちらの提案事業については、基本的に委員の任期である2年間に合わせて実施することとしており、1年目を調査研究の年としています。令和7年度は次期第10期目の委員による調査研究としていただきたいと思いますと考えております。本市における令和7年度の予算編成方針が提示されるのは今後であり、これからの予算要求となるために、金額面など、現状でははっきり申し上げることができませんが、令和6年度予算は、区企画事業と自治協議会提案事業を合わせて2,900万円となっています。

各事業期間は記載のとおりです。

本日の説明の趣旨は、委員の皆様から、左側の列の区企画事業についてアイデアをいただきたいというものです。なお、これから内部検討などを行うため、必ずしもそのアイデアを取り入れられないこともあるということをご了承願います。

続いて、裏面の2ページをご覧ください。

区づくり予算編成のスケジュールです。左側、自治協議会の列をご覧ください。6月、本日ですが、区企画事業について委員の皆様からのアイデアの募集を開始させていただきます。8月9日を締切りとさせていただき、いただいたアイデア概要を8月の自治協議会にてご説明いただきます。その後、区に寄せられたアイデアなども参考にしながら検討し、事業案を作成します。

なお、1ページ上段の内容に記載のとおり、防災と福祉に関連する事業につきましては、全庁的に取り組む内容であるため、区企画事業としては対象外となっております。原則、防災と福祉以外の内容についてアイデアをお寄せください。ただし、ほかの区では実現できないような区独自の地域性が特に高い事業は、区企画事業とできる場合もあります。一例ですが、秋葉区でいえば石油が湧いてくるといったこともあるので、それを考慮した防災対策に関する事業などが考えられます。

そして11月の自治協議会では、令和7年度の区企画事業の提案状況をお示しする予定で、最終的には12月の自治協議会において区づくり予算全体の意見聴取をお願いし、承認いただきたいと思いますと考えています。

その後、市全体の予算編成が行われ、最終的には来年2月議会の審議を経て、予算が確定することになります。

次に、少し上の10月の行をご覧ください。一方、この要求の流れとは別に、10月には、

令和5年度の区づくり予算の実績報告をさせていただきます。

続いて3ページをご覧ください。特色ある区づくり事業 アイデアについてと表題のあるこの用紙が、区企画事業のアイデア応募用紙です。特に本様式でなく、任意書式でも結構です。来年度、令和7年度の事業アイデアをお寄せくださるよう、お願いいたします。ご多忙のところ恐縮ですが、8月9日金曜日までにメールまたはファックスなどで地域総務課までご提出いただければと思います。

次に5ページをご覧ください。参考資料です。

こちらは令和6年度の各区の区づくり予算の一覧です。北区分については5から6ページ、昨年度12月に自治協議会で説明させていただいたものになります。なお、区づくり予算一覧のうち、青囲みの区長提案、赤囲みの区づくりとあるものが区企画事業となります。

昨年、自治協議会委員の方からのアイデアを反映させていただいたものについて、いくつか紹介します。上から5つ目「海辺の森共創の場形成事業」において、昨年清水委員から、観光資源に直結する「海辺の森 賑わい創出」に資する活動ということで、効果的な案内看板の拡充やさまざまな広告宣伝活動の強化などをご提案いただき、参考にさせていただいております。また、小熊委員や菊地委員からご提案いただいた空き家の活用に関するご提案については、6つ目の「松浜エリアリノベーション推進事業」の中で参考にさせていただきました。ありがとうございました。

続いて、6ページの最下段は、令和6年度の自治協議会提案事業の概要となります。

その他、7ページ以降は各区の区づくり予算を参考までに添付しています。

委員の皆様より、多くのアイデアをお待ちしています。

前田会長

江戸副区長、ありがとうございました。今のご説明に対して何かご意見とか質問とかございましたら、挙手の上お願いします。

菊地委員

松浜地区コミュニティ協議会の菊地と申します。

実は昨年、自分だけの意見ではなくて、コミュニティ協議会の委員の方にも区づくり予算に関してこういう意見がありましたということで話をして、いろいろ出たのです。せっかく出してくれた人の名前を出したかったのですが、自分の名前でないといけないでしょうか。

副区長

1号委員の方はコミュニティ協議会を代表して出席いただいていますので、菊地委員のお名前前の提案がコミュニティ協議会の提案ということで捉えていますので、ご容赦いただきたいと思います。

菊地委員

いいです。分かりました。ありがとうございました。

前田会長

ほかに何かございませんか。

ないようであれば、先ほど副区長から話がありましたけれども、アイデア提出が8月9日期限となっておりますので、皆さん、よろしく願いいたします。

(3) 令和6年度教育委員会事業概要について

次に報告事項(3)令和6年度教育委員会事業概要について、教育支援センター長からご説明をお願いします。

教育支援センター長

北区教育支援センターの上村です。本日は阿部指導主事と一緒にまいりました。

私からは、令和6年度の教育委員会の主な事業について説明させていただきます。事前にお送りしています、報告資料3をご覧ください。まず1ページをご覧ください。

本市では、「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」をテーマに、5つの視点から重点的な取組みを実施することとしています。一番下の囲みになりますが、令和6年度取組みの方向性として、子どもたちの自己実現をしていく力や豊かな心、健やかな体の育成を図るほか、学校教育と社会教育がこれまで以上に連携し、子どもたちの育ちと市民の生涯にわたる学びを支える施策を推進するとともに、市長部局と連携を密にしながら教育環境の整備を進めていきたいと考えています。

次に、具体的な取組みについてです。2ページをご覧ください。視点1、視点4の分野です。はじめに、教育デジタルトランスフォーメーションの推進では、プログラミング、新聞データベース教材の整備として、1人1台端末を活用し、子どもの情報活用能力を伸ばすた

め、中学校でプログラミング教材、小中学校で新聞データベース教材を導入します。

続きまして、特別支援教育の推進では、個別の教育支援サポートとして、個別の教育支援計画等の作成支援システムを全市立学校園に導入し、就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制の構築を図ります。

また、巡回通級指導教室整備では、他校通級に伴う保護者の負担軽減や、子どもが在籍校の慣れた環境で安心して指導を受けられるよう、教員が子どもの在籍校を訪問する巡回指導を開始します。

次に、中学校の全員給食化、給食費の公会計化ですが、市内の全生徒に温かく栄養バランスのよい食事を提供することを目的に、中学校スクールランチを食缶方式による全員給食に切り替えるための準備を行います。また、教職員の負担軽減と保護者の利便性の向上などを目的に、学校給食費の徴収管理を行う業務システム等を整備します。なお、全員給食については、令和7年度の夏休み明け以降を基本に開始する予定です。

次に、学校園の計画的な設備整備のうち、特別教室の空調整備と照明設備のLED化ですが、特別教室への空調設置を進めるほか、LED照明設備の導入を進めることにより、教育環境の向上と温室効果ガスの排出量の削減を図ります。

次に、中学生のための地域クラブ活動支援の地域クラブ活動支援事業では、地域クラブ活動推進室を新設し、地域と学校が連携、協働して設置を目指す地域クラブ活動が円滑に実施されるよう、指導者の謝金の助成や準備経費等を支援します。

次に、幼児教育に関する支援体制の整備については、記載のとおりです。

次に3ページをご覧ください。視点2の分野です。

はじめに、多様な教育の機会、支援体制の整備の公立夜間中学の設置検討ですが、義務教育を修了していない方や外国籍の方などに対し、義務教育を受ける機会を実質的に確保するため、公立夜間中学の設置検討のための調査を行い、本市におけるニーズを把握します。

次に視点3ですが、地域とともにある学校づくりの推進として、引き続きコミュニティスクール講座を開催し、学校運営協議会が機能充実を図り、内実を高めていきます。

次、めくっていただきまして4ページをご覧ください。視点5の分野です。

多忙化解消のうち、教員業務支援員配置事業ですが、教職員の負担を軽減し、児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を構築するため、これまで順次支援員の配置を進めてきましたが、今年度は全ての小中学校等に支援員を配置します。

また、教頭マネジメント支援員配置事業として、教頭の負担を軽減するため、新たに学校マネジメント等にかかる業務を支援する人材を配置します。

次に、新潟市教職員の資質能力の向上のうち、教職員研修受講履歴記録管理事業といいま

すが、国が開発しているシステムを用いて研修受講履歴を記録するほか、教員研修プラットフォームによる研修のオンライン受講が可能となり、教員一人一人の資質能力の向上を図っていきます。

次に、新・新潟市教育ビジョンの策定ですが、現行の新潟市教育ビジョンの第4期実施計画が令和6年度末に終了するにあたり、今後、本市の教育のあり方や方向性を基本構想から検討し、新・新潟市教育ビジョンを策定していきたいと考えています。

最後に、生涯学習、社会教育関係課の組織再編ですが、地域教育推進課、生涯学習センター、中央公民館を再編し、社会教育機能の強化、社会教育と学校教育施策の連携を深化し、市長部局等とともに連携を図ることで体制強化を進めていきたいと考えております。

以上で事業説明を終わります。

なお、本日、委員の皆様は、新潟市の中学生のための地域運動活動、文化活動の質問についてという回答と、アンケートをお配りしております。質問についての回答ですが、昨年度、各区の教育ミーティングで、自治協議会委員の皆様よりいただいた主なご意見に対する回答を一覧にしたものになります。後ほどご覧ください。

また、アンケートですが、昨年度北区の委員の皆様よりいただきました、スクールランチの給食のチケット購入が複雑だと聞いている、学校園のLED化・施設整備について重点的に取り組んでほしい、などのご意見も踏まえて、今年度、中学校の全員給食化や学校園の計画的な設備整備に取り組んでいます。

今後の教育委員会の施策に活かしていきたいと思っておりますので、アンケートにご意見をご記入いただきまして、お手数ですが、受付かまたは区役所2階の北区教育支援センターまでご提出をよろしくお願いいたします。

前田会長

ありがとうございました。

今のご報告について何かご質問とかご意見などがございましたら。

菊地委員

松浜地区コミュニティ協議会の菊地と申します。

中学校、視点1の中学校の計画、設備のところなのですが、中学校のエレベーター設置1校というのは、具体的にどこになりますでしょうか。

教育支援センター長

対象が、東新潟中学校となります。

菊地委員

すみません、もう一つなのですが、今までも学校の先生の多忙、視点5の多忙化解消ということで取り組んできたと思うのですけれども、今まで、どういうことに取り組んできて、どのくらい成果が得られているのか、そしてこれからどのようなことで多忙化解消に向けて取り組んでいきたいのかということをお聞きしたいのです。

教育支援センター長

多忙化を解消する計画、行動計画というものを策定してまして、学校に先生方がいる時間というのでしょうか、それを短くするという取組みを行ってまして、これが、月当たり45時間以下という指標があるのですが、令和4年度73.5パーセントだったのが、令和5年度76.5パーセントということで少し改善しているのですけれども、まだまだこれから取り組んでいく必要があるということで、今、第4次の多忙化解消行動計画を策定いたしまして、一層取組みを進めているところでございます。

菊地委員

ありがとうございました。

佐藤委員

太田ちいきコミュニティ協議会の佐藤です。

私は中学校でコーディネーターをやっているのですけれども、コミュニティスクール講座、はコミュニティスクールに在籍している委員の方が行くものなのか、それともコミュニティスクールに興味がある地域の方が行くものなのか、この発信方法がよく分かりません。

もし、コミュニティスクール、学校運営協議会に興味がある場合に、説明をしてもらえるものであれば、ありがたいと思います。

阿部指導主事

ありがとうございました。コミュニティスクール講座につきましてですけれども、参加ご案内をしている対象としては、学校運営協議会の委員の方、そしてCS委員以外の地域教育コーディネーター、それから教職員、社会教育施設の職員の方という範囲です。

佐藤委員

そうしたら、こういう活動をしていますということを地域の方に別に案内をするわけではなくということですね。地域の方、コミュニティスクールが何か分からない方も多いです。コミュニティスクールって何みたいなことをたまに言われるので。

教育支援センター長

この講座自体は確かに、対象者が限られているのですけれども、こういうことをやっているということについては、これから教育委員会としてもいろいろPRしていく必要があるかと思えます。ご意見、ありがとうございました。

前田会長

ありがとうございました。

私の意見なのですけれども、私もそのコミュニティスクールの委員をやっています。岡方の場合は、たしか全家庭にお便りか何かが出ているような感じに今なっていますので、そのことがあれば、コミュニティスクールの状況が多くの人に分かってもらえるかもしれません。

ほかに何かございませんか。

ないようであればこの件はこれで。大変ありがとうございました。

(4) 早通地域別実行計画の策定について

次に報告事項(4) 早通地域別実行計画の策定について、江戸副区長からよろしくお願ひします。

副区長

早通地域の公共施設再編を図る実行計画の策定着手についてご説明します。報告資料4をご覧ください。これは5月31日に早通地域に自治会を通じて全戸配布した広報紙です。

本市では、少子高齢化社会の進展や、老朽化する施設の増加により、全ての公共施設を維持管理することが困難であることから、施設の多機能化、複合化、スペースの有効活用などによりサービス機能を可能な限り維持していきます。

ページをお開きいただき、右下をご覧ください。

具体的には、地域の皆さんと協働で、地域単位で公共施設の未来のあり方を検討し、具体

的な地域別の実行計画を作成します。中学校区を基本とした 55 の地域ごとに、老朽化した施設が多い地域などから順次策定に着手し、これまで 6 地域の実行計画が策定され、北区では、ここ葛塚地域で北区役所と公民館の複合化などを図ったほか、木崎地域で計画を策定しています。

では、なぜ早通地域で検討するのかですが、見開きページの左上をご覧ください。

早通地域では、コミュニティセンターや児童センターが老朽化しているほか、昨年度、児童センターの今後のあり方について地域で検討したことから、今年度は早通地域全体の施設について、地域の皆様とあり方を考えることにいたしました。

検討に当たっては、施設利用者などで構成されるワークショップを開催するほか、ご覧の広報紙や説明会などで幅広くご意見を募り、最終的には市で計画を策定します。

スケジュールですが、右ページ中ほどをご覧ください。第 1 回のワークショップを 8 月 31 日の 9 時から早通コミュニティセンターの講堂で実施したのち、ワークショップを 5 回前後開催し、1 年程度かけて計画を策定したいと考えております。

また、計画ができた際にはまたご報告いたしますので、ご承知おきください。

前田会長

ありがとうございました。今の説明について何かご意見とかご質問とかございましたら。

菊地委員

松浜地区コミュニティ協議会の菊地と申します。

新潟市は、新しい施設は作らないという方向できていたのですが、これは、新しい施設を作っていくという方向のものなのでしょうか。

副区長

そういうことではなくて、施設を再編する、二つを一つにするとか、統合するとか、一つの施設に集約するとか、そういうような形で、統合する場合には建替えということも場合によってはあり得ますが、原則的には新規の施設は建てない形となります。

菊地委員

ありがとうございました。

前田会長

ほかに何かありませんか。

ないようであれば、この件はこれで終わりにします。ありがとうございました。

次に(5)部会の会議概要について、各部会長から、地域づくり部会、福祉教育部会、自然文化部会の順に説明をお願いいたします。

(5) 部会の会議概要について

佐久間委員

地域づくり部会の佐久間です。よろしくお願ひします。

地域づくり部会は、今年度、防災カルタを作るということで、その詳細について部会で話し合いました。また、区役所だより6月16日号に募集詳細を掲載しました。そして、本日皆様の机上にも応募用紙を配布させていただきましたので、皆様も奮ってご参加をお願いしたいと思います。また、ご協力いただける学校も何校かあるようで、作品の選定が大変になると思っていますが、たくさん応募があるといいなと思います。

作品の難易度について議論があったのですが、読み仮名を振ることで全年齢に対応させ、幅広い世代に応募していただきたいので、対象年齢の指定はしないことにしました。幅広い世代で楽しみながら、防災を学べるカルタをコンセプトに募集をかけています。

今後のスケジュールとしては、今日は作品募集中ということで、休会の予定です。来月は、選定や札の編集などをしていきたいと思っています。

あとは、チラシを作成して、作品応募に意欲がある団体などへ積極的に周知していきたいと思っていますので、皆さんの中で周知にご協力いただける団体さんがいらっしゃいましたら、ぜひお声がけいただきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

清水(博)委員

福祉教育部会から報告を行います。

令和6年度の事業の具体的な内容について、意見の集約を行いました。その内容については記載のとおりであります。11月中旬に講演会を行って、その後、ワークショップを行う予定です。また、ワークショップでは、できるだけ地域とのつながりのない、薄い人に、地域活動への関心を持ってもらえるかどうかを話し合ってみたいと思っています。

部会では、講演会は幅広い人に来てもらえるよう、講師を数名に絞りまして、名前の挙がった人に事務局で確認を行うということを決めたところであります。会場は、豊栄地区公民館を候補として、募集人員は50名から100名程度を予定しております。

詳細については今日の部会で話し合っていきたいと考えています。

小日向委員

自然文化部会です。自然文化部会のイベント内容については、9月22日の福島潟自然文化祭の会場において行うということで計画を進めています。

内容については、潟の素材を使った料理についてトークセッションを行うことを中心に話を進めておりまして、トークセッションに出席していただける方、何名かを選定中でございます。ほかに、料理の内容等についても、今、細かいところを詰めている途中で、今日の部会において、詳細を決める予定です。

あとは、そこで最後にクイズを行って景品を進呈しようと、クイズの内容、商品についても、部会の皆さんからアンケートを今集めておりますので、本日の部会で詳細を決める予定です。来月7月の自治協議会において発表できるのではないかと考えております。

前田会長

各部部长、ありがとうございました。今の説明で何かご質問とかご意見などがございませうか。ないようであれば、次に進みたいと思います。

次第3「その他」について事務局からお願いします。

公民館より主催事業について案内（省略）

前田会長

ありがとうございました。ほかに何か。いいですか。

委員の皆さんから何かご意見とかございましたら。ありませんか。

ないようであれば、予定された議題、連絡は以上で終わります。議事進行にご協力いただきまして大変ありがとうございました。それでは事務局に進行をお返しいたします。